

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科	科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	聴覚系の構造、機能、病態	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生	学期	前期	教室名	
担 当 教 員	鎌倉 武史				
実務経験と その関連資格	耳鼻咽喉科医師として大阪大学医学部附属病院、大阪労災病院、箕面市立病院、大阪母子医療センター、大手前病院で勤務。2024年4月より大阪市立総合医療センター小児耳鼻咽喉科副部長。2014年には内耳研究にて学位を取得し、2015年からの2年間Massachusetts Eye and Ear Infirmary/Harvard Medical SchoolにResearch fellowとして側頭骨病理学の研究を行った。中内耳研究、難聴治療、耳科手術を専門としている。耳科手術は今までに400例以上の経験がある。 日本耳鼻咽喉科学会認定専門医、指導医 / 日本耳科学会会員、側頭骨組織病理ワーキンググループ委員 / Schuknecht Society会員 / 日本聴覚医学会会員、広報委員会委員 / 日本めまい平衡医学会会員 / 日本小児耳鼻咽喉科学会会員 / 日本頭頸部外科学会会員 / 耳鼻咽喉科臨床学会会員 / 日本メディカルイラストレーション学会会員 / 日本人類遺伝学会会員				
《授業科目における学習内容》					
聴覚系の構造、機能、病態を学び、これらを基に聴覚の疾患を理解する。					
《成績評価の方法と基準》					
定期試験100%、100点満点で60点以上が合格基準。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
医学書院の「聴覚障害学第3版」と医歯薬出版の「言語聴覚士のための聴覚障害学」					
《授業外における学習方法》					
講義の中で、十分に復習の時間を設けているが、各回学んだ内容を各自でまとめ、復習を行い知識を定着させる。					
《履修に当たっての留意点》					
聴覚系の構造、機能を理解することは聴覚系の病態を理解する上で必要不可欠です。言語聴覚士として必要な知識を習得してください。					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	聴覚の存在意義を理解できる。外耳の解剖を説明できる。	『聴覚障害学』、 『言語聴覚士のための聴覚障害学』	(予習)本授業のテーマの領域を読み、重要事項をまとめておく。 (復習)学んだ内容をまとめておく	
	各コマにおける授業予定	はじめに 聴覚とは？、聴覚器の発生、解剖			
第2回	授業を通じての到達目標	中耳・内耳の解剖を説明できる。	『聴覚障害学』、 『言語聴覚士のための聴覚障害学』	(予習)本授業のテーマの領域を読み、重要事項をまとめておく。 (復習)学んだ内容をまとめておく	
	各コマにおける授業予定	聴覚器の解剖			
第3回	授業を通じての到達目標	中内耳解剖の復習と、中耳・内耳の伝音機構とその異常について理解する、	『聴覚障害学』、 『言語聴覚士のための聴覚障害学』	(予習)本授業のテーマの領域を読み、重要事項をまとめておく。 (復習)学んだ内容をまとめておく	
	各コマにおける授業予定	中耳・内耳伝音機構			
第4回	授業を通じての到達目標	内耳の感音機構とその異常について理解する。	『聴覚障害学』、 『言語聴覚士のための聴覚障害学』	(予習)本授業のテーマの領域を読み、重要事項をまとめておく。 (復習)学んだ内容をまとめておく	
	各コマにおける授業予定	内耳感音機構			
第5回	授業を通じての到達目標	中内耳解剖、中内耳伝音、感音機構の復習と、中枢における聴覚伝導路の経路と言語処理について学ぶ。	『聴覚障害学』、 『言語聴覚士のための聴覚障害学』	(予習)本授業のテーマの領域を読み、重要事項をまとめておく。 (復習)学んだ内容をまとめておく	
	各コマにおける授業予定	聴覚伝導路と言葉の認識について			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第 6 回	授業を通じての到達目標	伝音難聴の病態について理解する。	『聴覚障害学』、 『言語聴覚士のための聴覚障害学』	(予習)本授業のテーマの領域を読み、重要事項をまとめておく。 (復習)学んだ内容をまとめておく
	各コマにおける授業予定	伝音難聴		
第 7 回	授業を通じての到達目標	伝音難聴を生じる疾患の個々の特徴について理解する。	『聴覚障害学』、 『言語聴覚士のための聴覚障害学』	(予習)本授業のテーマの領域を読み、重要事項をまとめておく。 (復習)学んだ内容をまとめておく
	各コマにおける授業予定	伝音難聴を生じる疾患		
第 8 回	授業を通じての到達目標	内耳性の感音難聴の病態について理解する。	『聴覚障害学』、 『言語聴覚士のための聴覚障害学』	(予習)本授業のテーマの領域を読み、重要事項をまとめておく。 (復習)学んだ内容をまとめておく
	各コマにおける授業予定	内耳性難聴		
第 9 回	授業を通じての到達目標	内耳性の感音難聴を生じる疾患の個々の特徴について理解する。	『聴覚障害学』、 『言語聴覚士のための聴覚障害学』	(予習)本授業のテーマの領域を読み、重要事項をまとめておく。 (復習)学んだ内容をまとめておく
	各コマにおける授業予定	内耳性難聴を生じる疾患(1)		
第 1 0 回	授業を通じての到達目標	内耳性の感音難聴を生じる疾患の個々の特徴について理解する。	『聴覚障害学』、 『言語聴覚士のための聴覚障害学』	(予習)本授業のテーマの領域を読み、重要事項をまとめておく。 (復習)学んだ内容をまとめておく
	各コマにおける授業予定	内耳性難聴を生じる疾患(2)		
第 1 1 回	授業を通じての到達目標	後迷路性の感音難聴の病態と疾患の個々の特徴について理解する。	『聴覚障害学』、 『言語聴覚士のための聴覚障害学』	(予習)本授業のテーマの領域を読み、重要事項をまとめておく。 (復習)学んだ内容をまとめておく
	各コマにおける授業予定	後迷路性難聴とその疾患		
第 1 2 回	授業を通じての到達目標	中枢性の感音難聴の病態と疾患の個々の特徴について理解する。	『聴覚障害学』、 『言語聴覚士のための聴覚障害学』	(予習)本授業のテーマの領域を読み、重要事項をまとめておく。 (復習)学んだ内容をまとめておく
	各コマにおける授業予定	中枢性難聴とその疾患(1)		
第 1 3 回	授業を通じての到達目標	中枢性の感音難聴を生じる疾患の個々の特徴について理解する。	『聴覚障害学』、 『言語聴覚士のための聴覚障害学』	(予習)本授業のテーマの領域を読み、重要事項をまとめておく。 (復習)学んだ内容をまとめておく
	各コマにおける授業予定	中枢性難聴とその疾患(2)		
第 1 4 回	授業を通じての到達目標	詐聴と心因性難聴の特徴について理解する。	『聴覚障害学』、 『言語聴覚士のための聴覚障害学』	(予習)本授業のテーマの領域を読み、重要事項をまとめておく。 (復習)学んだ内容をまとめておく
	各コマにおける授業予定	機能性難聴		
第 1 5 回	授業を通じての到達目標	聴覚系の構造・機能・病態を理解する。聴覚系の構造・機能・病態を説明することができる。	『聴覚障害学』、 『言語聴覚士のための聴覚障害学』	試験に向けて全般をまとめる
	各コマにおける授業予定	まとめ、リクエストのあった分野を再度講義		